



CONTENTS

保立 和夫 新学長インタビュー	02, 03
教育・研究の現在 (いま)	04~07
スポーツで輝く豊田工大生	08
NEWS FILE	09~11
人事紹介	11
新キャンパスNEWS	11
2018年度 学校法人トヨタ学園の決算概況	12

SCHEDULE 行事予定 (10月~12月)

入試情報

■ 11月14日	大学院博士後期課程(冬季選抜)選考日(一般・社会人) (11/29合格発表)
■ 12月7日	専門高校特別選抜(公募制推薦)(12/18合格発表) 外国政府派遣留学生特別選抜(12/18合格発表)

学事

■ 12月25日~1月5日	冬期休業
---------------	------

イベント

■ 10月24日	スマートビークル研究センターシンポジウム
■ 12月5日	TTICとのジョイントCSセミナー
■ 12月19日	企業向けオープンラボ

保立 和夫 新学長インタビュー

教職員と学生が一体となり、
本学の「魅力」と「強み」をさらに増幅させていきたい。

2019年9月に第7代学長に就任した保立和夫新学長に今後の抱負と展望を聞いた。

■ 本学に対する思いなどをお聞かせ下さい。

学校法人トヨタ学園が設立された1979年は、私が大学教員としての活動を開始した年です。以来、大学人として、本学の特徴ある活動を耳にしてきました。特に1998年には本学で講演の折に来学した際「山椒は小粒でもピリ辛い」ことを目の当りにしました。2017年春に副学長・教授に就任して以来、この「ピリ辛さ」はもっと増幅できるはずと、日に日に強くなるその思いを教職員の皆さんと語っています。

■ 本学の果たすべき役割・責任とは何でしょうか。

本学は、あえて小規模な大学として「設計」されました。加えて、「ピリ辛い」存在となるような「設計図」も描かれています。教員一人当たりの学生は10名と国立大学と同等で、教育・研究の密度が高まる構造です。学内の研究費配分にも工夫があります。大学の使命は、「教育」、「研究」、そして「社会貢献」です。本学の設立に携わった方々は、この「設計図」を示すことで、「大学の本来的使命をしっかりと果たすように」と、私たちに託されたものと考えます。建学の精神「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」は、高等教育機関である大学の本来的使命そのものです。私たちは、この「設計図」から生み出されるべき「魅力と強み」を、さらに増幅し続ける責任を負っていると考えています。

さらに、新しく令和の時代も始まり「頑張りのスイッチを改めてONにする」良いチャンスです。ましてや、来年は新たなキャンパスも完成します。前述の「設計図」に書き込まれた本学が持つべき「魅力と強み」をさらに増幅するために、教職員と学生が一体となりこのスイッチを入れましょう。

■ 「工学教育」の在り方と学生の皆さんが「培うべき力」とは、どの様なものでしょうか。

学生の皆さんが培うべき力は、「帰結への深い理解」と「その理解に至る学習方法」です。全ての帰結にはその理由があって、理解するとは「帰結に対応した理由に納得する」ことです。この理由は、それを帰結とするさらに深い理由を手繰り寄せます。大学での教育内容は重層化・体系化された「帰結と理由の大規模な連鎖」なので、上記の学習態度が必須です。体系化により、大規模な連鎖でも理解できる仕組みです。この学習態度を会得すれば、未知の分野での理解をも深めてゆける「自己学習可能な人材」となれます。これは「自ら論理的に考える」ということで、時間のかかる学習態度です。この学習態度にとって整合性がより良いカリキュラム構成へと磨きを掛けることが重要です。「帰結の暗記は理解ではない」ですからね。

■ 教育・研究・国際化のそれぞれにおいて、強化していきたい取り組みなどがあればお聞かせください。

工学の成果は社会変革も導きます。私たちには、この変革による将来を想像し、それに責任を持つ必要があります。リベラルアーツ教育は、「将来を想像する」ためにも、「自らの行動への責任感を醸成する」ためにも、重要であり、本学でも引き続き拡充していきたいと考えます。独創性に富んだ研究の遂行にも、「帰結に対応した理由に納得する」態度が必須です。教育と研究を併走させる大学において「独創研究」が可能な理由は、ここにあります。つまり、大学では基礎的、応用的のいずれにおいても「独創研究」が遂行し得て、またそうしなければなりません。自己学習可能な力を鍛えた学生の

略歴

1979年東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻 博士課程修了(工学博士)、同大学宇宙航空研究所専任講師。93年同大学先端科学技術研究センター教授、97年より大学院工学系研究科教授。2008～10年の工学部長・工学系研究科長を経て、2015～17年には理事・副学長を歴任。2017年に本学に副学長・教授として着任。学会等においては、電子情報通信学会エレクトロニクスソサエティ会長、日本学術会議会員・電気電子工学委員会委員長、2016年から2018年には応用物理学会会長を務める。専門はシステムフォトリソグラフィ、光ファイバセンサ。



皆さんと、「独創研究」に挑戦したいですね。国際化をより深化させるには、国際語としての英語力と、深い思考の基盤である「第一言語力」とを、共に磨き続ける必要があります。本学には、教育、研究、国際化を推進する仕組みが多く整備・蓄積されています。一方で、学習にも研究にも、時間を要する「自ら論理的に考える」姿勢が重要です。学生の皆さんや教職員の皆さんと、有限の時間をどう活用するのがベストなのかを、共に考えたいと思います。

■ 最後に本学に関わる皆さんへのメッセージをお願いします。

本学は、トヨタ自動車株式会社の社会貢献事業の一環として誕生しました。以来、多くの関連企業の皆さまからご支援を頂きながら、本学を学び舎とした卒業生や歴任教職員の方々の熱意の上に、自由で闊達な教育・研究活動を展開してきました。在学生、教職員の皆さんと、本学の「設計図」の意味を熟考しつつ、建学精神「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」を心に刻んで、「大学の本来的使命をしっかりと果たす」活動を増幅していきたいと思います。今後とも、ご支援・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

エピソード

幼少の頃よりラジオやカメラの分解を好み、プラモデルなども数多く製作。小学校の卒業文集には「大きくなったら模型屋になりたい。そのためにも、技術を身につけるために大学でエンジニアリングを学びたい」と書いていた。いつしか、その夢は航空宇宙工学や電気電子工学のエンジニアにまで発展。東京大学では、航空工学科へも興味を持ちつつ電子工学科に進み、学問としてのモノづくりに関わることを決意。結果的には、宇宙航空用のフォトリソグラフィ技術の開発に携わるなど、幼少の頃の夢が叶ったと話す。

横顔

笑うこと、笑って頂くことをこよなく愛し、普段の会話においても、落語と同様に「おち」と「間」を大事にしている。もっとも気に入った噺(演目)は「ためし酒」。その理由は、これをネタにして「課程博士の重要性が漸せるから!？」とのこと。東京を離れて初めての単身赴任生活を開始し2年余りだが、東大時代の学生の皆さんに囁かれた「先生はテレビ番組の『はじめてのおつかい』をしに行くんですよね」を、無難にこなしているとのこと。

豊田工業大学の教育・研究の現在(いま)

高等教育機関である大学の使命は「教育」「研究」と「社会貢献」。その取り組みの独自性こそが、各大学の「魅力と強み」とも言える。豊田工業大学の教育・研究の現在(いま)として、その一端を紹介する。

教育

学外講師による授業充実 ～実践的な教育の展開～

社会的ニーズの高い分野に対応できる人材を育成する観点などから、企業との連携を通じ企業人などによる実践的な教育の展開が大学教育において重要視されている。本学では、かねてより、産業界や学界などさまざまな領域において優れた貢献をされてきた方々を招き、これまでの体験や思索に基づく講義を学部・大学院を通じて実施している。特徴的な授業科目をピックアップして紹介する。



現代工学概論1・2

学部2年生対象

～現役エンジニアの日々の挑戦から学ぶ～

企業における先端開発テーマの紹介、学生時代に学びべき課題、企業が求めるものなどについて、毎回、現役の技術者、研究者にお越し頂き生の声から学ぶ「現代工学概論」。4月23日実施の講義では、サントリー食品インターナショナルの加藤芳夫氏をお迎えし「パッケージデザインは生活する人と共にある」との信条のもと、同社での清涼飲料水、アルコール商品などの製品パッケージ開発に携わられた秘話やブランド構築について講義頂いた。



トヨタ生産方式概論

学部3年生対象

～講義と実習を組み合わせトヨタ流のモノづくりを学ぶ～

トヨタ自動車 生産調査部から講師を招き、ものの造り方や仕組みが、安全、品質、リードタイムや原価と密接に関連性を持つことを学ぶ「トヨタ生産方式概論」。授業では、講義、演習、ディスカッションによりトヨタ生産方式の基本的な考え方や用語を理解し、後半には、模擬工程を用いた演習を行い、実体験を通じて理解を深める。特にグループに分かれて行う演習では、製品製造から納品までの模擬工程を自ら作り、改善と工夫をしながら複数回繰り返すことで、評価指標を向上させていく内容で、学生たちは、楽しみながらも真剣に取り組んでいた。



Education

国際標準化戦略論

学部4年生対象

～国際標準に向けた企業の取り組みを知る～

国際標準化に積極的に取り組む自動車産業を題材に、その重要性や戦略、イノベーションにおける位置付けを学ぶ授業科目が「国際標準化戦略論」。公益社団法人日本工学会の高木真人氏を講師に、知識を実際に活用できることを目指し、授業ではディスカッションの場を設け、理解を深めていく。また、6月15日には、日本ばね工業会の標準化会議長を務める自動車用小物ばねメーカー東郷製作所の相羽繁生取締役社長に、ばね分野の国際標準化に向けた動向について解説頂いた。

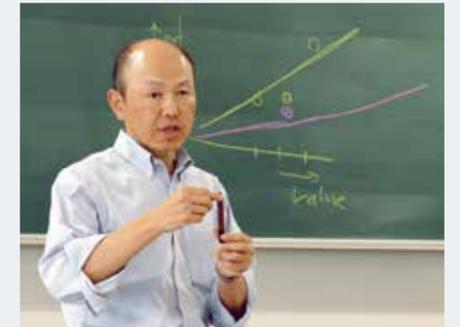


経営管理工学

学部4年生対象

～企業経営の根幹、原価に対する理解を深める～

企業経営において適正な利益を確保するために、原価低減がいかに重要であるかを理解し、エンジニアとして原価管理・維持・改善にどのように向かうかを学ぶ「経営管理工学」。トヨタ自動車の収益関連事業部の鈴木浩之氏を講師に迎え、一般的な財務諸表の見方、分析や原価算出の方法、さらにはVE(量産前の価値分析)、VA(量産後の価値分析)といった考え方に基づく原価管理活動の要点をトヨタ自動車を例にして講義頂いた。



高度教養科目

「科学・技術と人間・社会」

修士学生対象

～講師との対話を通じて、幅広い視野と教養を身につける～

さまざまな分野で顕著な業績を挙げている方々を毎回講師に迎え、講義と学長も参加するディスカッションを通じて、技術者・研究者として活躍するための素養を磨く修士高度教養科目「科学・技術と人間・社会」。6月6日の回では、応用物理学の研究者であり洋画家としても活躍されている東京農工大名誉教授の佐藤勝昭先生をお迎えし「アートを科学する」をテーマに行われた。講義では、葛飾北斎の大波の版画を例にして、青色絵の具の歴史や、ゴッホのひまわりの絵における黄色について、材料科学の観点から解説頂いた。



研究

研究成果の発表と社会への還元
～開かれた大学として社会に貢献～

学内外において研究成果を紹介する機会が増え、本学の研究活動の存在感が高まっている。研究水準の維持・向上をはかると共に、研究成果を通じて社会に貢献するために直近で開催された取り組みをピックアップして紹介する。

学外

豊田工業大学シカゴ校 (TTIC)、産業技術総合研究所、理化学研究所との共催による
「人工知能に関するワークショップ」(7/11・12)



本学と豊田工業大学シカゴ校 (TTIC: Toyota Technological Institute at Chicago) が、産業技術総合研究所人工知能研究センターおよび理化学研究所革新知能統合研究センターと共に、人工知能に関する第3回International Workshop on Symbolic-Neural Learning (SNL 2019)を日本科学未来館(東京都)で開催した。

本ワークショップは、2017、18年に名古屋で開催してきたが、今回は、初めての東京での開催となった。深層学習などニューラルネットワークによる学習と知識構造や言語情報といった記号情報の学習の融合を対象にGoogleやFacebookの研究者による基調講演やポスターセッションなどが行われた。本学の学生も数多く出席し、国内外の研究者に交わり研究内容について活発に議論を行った。

基調講演者	講演タイトル
 Noah Smith氏 (University of Washington/Allen Institute for Artificial Intelligence)	Rational Recurrences for Empirical Natural Language Processing
 Kristina Toutanova氏 (Google)	Learning and evaluating generalizable vector space representations of texts
 Maximilian Nickel氏 (Facebook)	Geometric Representation Learning in Symbolic Domains

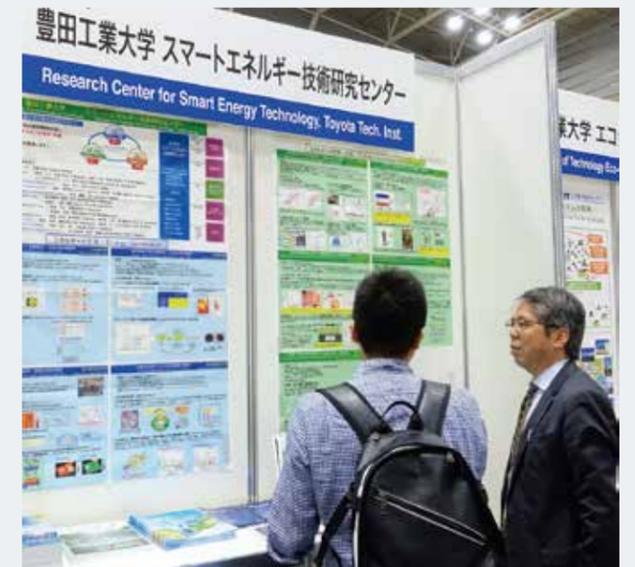
▶会場となった日本科学未来館とは

2001年に開館した科学館。独立行政法人科学技術振興機構 (JST) が運営し、館長は宇宙飛行士の毛利衛氏。最新の科学技術やその成果が分かりやすく紹介され、展示をはじめ、トークセッション、ワークショップなど多彩なメニューを通し、素朴な疑問から最新テクノロジー、地球環境、宇宙の探求、生命の不思議まで、さまざまなスケールで現在進行形の科学技術を体験することができる。なお、榊裕之前学長が同館の常設展示「技術革新の原動力」コーナーをはじめとする展示や全体計画、運営に関する総合監修委員会の委員長を務めている。



再生可能エネルギー&環境ビジネスフェア(7/10~12)

再生可能エネルギーを通じて持続可能な社会を実現する先進技術を集めた「再生可能エネルギー&環境ビジネスフェア」が、パシフィコ横浜(神奈川県)で開催された。本学のスマートエネルギー技術研究センターや、本学が明治・九州・名古屋・東京工業・兵庫県立の6大学のコンソーシアム形式で取り組むNEDO「高性能・高信頼性太陽光発電の発電コスト低減技術開発」事業がブース出展し、センター長の大下祥雄教授らが研究成果について発表を行った。本展示会は『再生可能エネルギー世界展示会』と『PV2019(太陽光発電展示会)』の2つの展示会が同時に開催されたもので、太陽光発電はじめ風力発電、水力発電、バイオマス発電、水素・燃料電池などの再生可能エネルギー関連の研究・技術に関する情報が一同に会する場となっており、3日間の来場者数は合計1万2千人弱となっている。



学内

機械学習講座 初級編(8/23、30、9/6)

本学が「機械学習を軸とするものづくり工学のスマート化」に対する研究・教育を強化する一環として、派遣企業の会に所属する企業11社の技術者・研究者30名を対象に「機械学習講習会(初級編)」を初めて開催した。講座では、プログラミング言語Python、数値計算モジュールNumPy、機械学習ライブラリscikit-learnの解説とこれらを使った機械学習の演習を行った。



半導体プロセス実習・講習会(9/10・11)

企業や学校関係者の要望に応じて半導体技術全般の知識を紹介する「半導体プロセス実習・講習会」を開催した。33回目となる今回の実習では、半導体プロセスの理解を深めると共に熱電対デバイスを製作する内容になっており、クリーンルーム内での実習のほか、車載・人検出センサへの応用を目指すMEMSセンサと、窒化ガリウムを中心とする化合物半導体デバイスに関する講義を行った。



予告

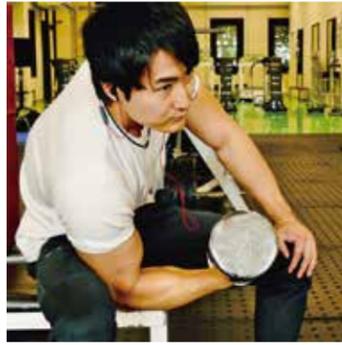
[学内] 10/24 スマートビークル研究センターシンポジウム 11/21 スマートエネルギー技術研究センターシンポジウム
12/5 TTICとのジョイントCSセミナー 12/19 企業向けオープンラボ
[学外] 11/21~24 あいちITSワールド2019(会場:ポートメッセなごや)に[スマートビークル研究センター]が出展予定

2020年の東京オリンピック開催まで1年を切るなか、学業と両立させながらも日々の鍛錬により肉体とテクニックを磨き、全国大会やプロスポーツの世界で活躍し、見事な結果を残している学生たちを紹介する。

Report 1 腕自慢の集まるアームレスリングの全国大会で準優勝

6/23、埼玉県で行われた第18回オールジャパンアームレスリング大会において学部4年の小柳嵐土君(安城東高等学校[愛知県]出身)が準優勝(75キロ級/右手)した。高校までは、遊びで腕相撲を楽しむ程度だったが、本学に入学してからは、大会にも出場。アームレスリングは腕力だけではなく、

相手との駆け引きや、テクニックなども必要とされ、小柳君は、勉強の合間をぬってほぼ毎日、体育館内のトレーニングルームで独自の筋トレにより全身を鍛え、動画なども参考にしてテクニック向上にも取り組んだ。今後も大会に出場し、栄冠を手にしたと、トレーニングに汗を流している。



Report 2 鍛え抜かれた肉体美を競うフィジーク大会に出場

学部4年の松本善樹君(矢崎総業株式会社出身)が、8/4に静岡県で行われた第3回東海フィジーク選手権大会のミドルクラスで、7位となった。フィジークとは、ボディビルと同様に筋肉量やそのつき方のバランスを競う競技。一方でボディビルと異なり、逆三角形(肩幅は広く、ウエストは細く)である事が審査の中でも特に重視される。他の選手の多くが、スポーツジムなどに所属し指

導者のもとでトレーニングや栄養管理を行う中、松本君は本学の体育館でトレーニングを重ね、栄養学などの知識も書籍などで身につけて行ったと言う。順位については悔しさもあるが、応援してくれる友人らの励ましを支えに、勉強と両立しながら日々の努力を重ねてきたことを誇りに思い、今後も努力をしていきたいと語った。



Report 3 2年連続のボクシング中日本新人王決勝に挑む

プロボクシングで、昨年はフェザー級の中日本新人王に輝いたテルのび太こと学部3年の嶋田光高君(文徳高等学校[熊本県]出身)。今年は階級を2つ下げバンタム級での新人王獲得を目指し8/4に愛知県刈谷市で行われた中日本新人王決勝戦に臨んだ。

結果は、残念ながら1-2の判定による敗退。幸い身体へのダメージも無く、既に気持ちを切り替え、ボクシングと勉強を両立する毎日を送っている。「次戦は必ず勝ちます」と語る笑顔には自信がみなぎっていた。



Report 4 自転車競技で国体(愛知県代表)に出場

学部4年の恩田拓君(豊田高等専門学校[愛知県]出身)が、茨城県で開催される第74回国民体育大会(国体)における自転車競技の愛知県代表選手として個人2種目(スクラッチ・ロード)、団体1種目(チームパシュート)に出場する。高専時代の自転車通学をきっかけに、自転車の魅力に取りつかれ、次第に各地のレースに出場し、上位入賞するまでになったという。自転車競技で勝ち抜くためには、スピードをはじめ瞬発力、持久

力さらにはペース配分や相手選手との駆け引きや機材のセッティングなど多岐にわたる対応が求められる。日々、勉強との両立をさせつつ体調管理にも留意しているそうで、大会では、練習の成果を発揮し、良い結果に繋がりたいと意気込んでいる。

【競技内容の説明】

- スクラッチ:バンク内で8km(予選6km)の走行順位を競う
- パシュート:バンク内を1チーム4名で4kmを走行。3番手のタイムで勝敗を競う
- ロード:公道で115キロの走行順位を競う



FILE-01 学生生活など

大学祭 ～学生たちが情熱とアイデアを注ぐ2日間～(9/7・8)

学 生たちが情熱とアイデアを注いだ大学祭「天樹祭」が9月7、8日に開催された。

36回目となる今回は、地域の方々をはじめとする来場者、主催者である学生たち自身も含め、関わる全ての人々が楽しめる活気にあふれる祭にしたいとの思いから「活祭」をテーマに、研究室公開やステージイベント、模擬店などさまざまな企画を実施した。

実行委員長の山家拓人君(学部2年/白石高等学校[宮城県]出身)は「準備段階では不安も多くあったが、仲間を支えられ2日間を無事に終えることができた」と満足そうに語った。また、初日には、卒業生・修了生対象の「ホームカミングデー」および教職員のOB・OG対象の「くすのき会」、公開講座(テーマ:クリーンエネルギー技術の最近の進展と今後の展望)も開催された。



FILE-02 教育活動

イノベーションコンテスト ～モノづくりによる創意工夫を競う～(7/8)

察 生活で抱える課題を“身の回りの道具”や“アイデア”をもとに、シンプルなモノづくりで創意工夫を競うイノベーションコンテストが開催された。2011年度から学部1年生の必修科目「工学スタートアップセミナー」の一環として実施している。

コンテストでは共同生活を送る7人のユニットで編成された14チームが、課題発見から対応策の検討を経て企画・製作

を行い、改良を繰り返し完成させる過程を、3分間の映像に集約して発表。玄関やキッチン周りの収納・美化に関する課題としたチームが多く、斬新なアイデアと工夫を凝らした力作が数多く登場した。今年度の優勝は「生ごみ回収装置」を製作したチーム。調理時に発生する生ごみに、手を触れずに廃棄する装置を作り、独創性とモノづくりの精度の高さが評価された。

優勝作品『生ごみ回収装置』

シンク内の生ゴミを、別設置の回収ボックス側に移動し、内側のゴミ袋に落下(写真1)。セットされていた紐を引き、ゴミ袋の口を結び、2段構造の下部にある集積部分に移動することで臭いの拡散も防止する(写真2)。

工夫のポイント



ゴミの落下を防ぐため、観覧車の乗りカゴのように水平を維持できる機構を取り入れた。

優勝チームのリーダー榎田 怜史君(岡崎北高等学校[愛知県])のコメント

期限までに良いモノを作り上げるには、とにかく計画が大切。これからも不便をそのままとせず積極的に解決していきたい。



FILE-03 国際化

サマーセミナー ～アジアの学生と共に学ぶ～(8/23～28)

海 外連携校のうち、アジアの連携校である国立中興大学(台湾)、チェンマイ大学およびチュラロンコン大学(共にタイ)、ハノイ工科大学・ホーチミン工科大学(共にベトナム)、浦項工科大学(韓国)から合計11名の留学生を迎えてサマーセミナーを開催した。今回は、「先端技術を求めて/Pursuit of Advanced

Technology」を全体テーマとし、テーマに関連した研究室体験や施設見学などを行った。各留学生には本学の学生が一人ずつフォロー役を担い、セミナー期間中は国際交流ハウスで寝食を共にするなど、生活・文化面で密な交流を深めることができた。

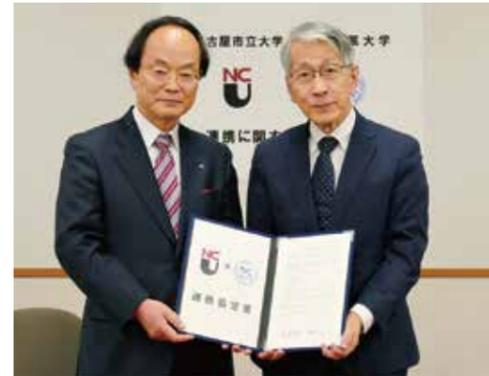


FILE-04 大学運営

名古屋市立大学と連携協定を締結(5/7)

名 名古屋市立大学(名古屋市瑞穂区)と、教育、研究、社会貢献などを中心とした連携協定を締結した。5月7日に名古屋市立大学の桜山キャンパスで行われた締結式では、両学長が協定書に署名し、榊裕之学長(当時)は「卓越した実

績を持つ名古屋市立大学との交流と連携を一層強化し、幅広い視野と深い洞察力を持つ人材の育成に貢献していきたい」と抱負を述べ、郡健二郎学長は「研究・教育の分野はもちろんのこと、大学運営などについてもノウハウの共有をしていきたい」と期待を述べた。



医学・薬学部をはじめ文系学部など7学部7研究科を擁する名古屋市立大学とは、これまでも医工連携による共同研究などを行ってきたが、今後、研究機器の相互利用や単位互換制度など、具体的な連携内容を協議し、随時活動をスタートさせる予定。なお、国内の大学との連携は南山大学、愛知大学に続き3校目となる。



連携に関する協定書合意事項

1. 教育研究分野、社会貢献、学生が行う諸活動に対する支援などに関する事
2. 具体的な事業の策定及び実施については、その都度両学で検討する

名古屋市立大学の概要

1950年に名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学を統合し開学。本部のある桜山(川澄)キャンパスをはじめ市内の計4か所にキャンパスを置き、7学部(医学部、薬学部、看護学部、芸術工学部、経済学部、人文社会学部、総合生命理学部)が設置されている。

FILE-05 組織

学校法人トヨタ学園／豊田工業大学 役員・役職について

9月1日付をもって、学校法人トヨタ学園および豊田工業大学の役職者は下記の通りとなった。

学校法人トヨタ学園

(2019年9月1日現在)

理事長	増田 義彦	株式会社 豊田中央研究所	元代表取締役
専務理事	安立 長	学校法人トヨタ学園	事務局長
常務理事	榊 裕之	豊田工業大学	前学長
理事	大森 徳郎	株式会社 デンソー	元取締役副社長
	木村 文彦	東京大学	名誉教授
	下村 節宏	三菱電機 株式会社	特別顧問
	鈴木 雅晴	株式会社 豊田自動織機	元取締役副社長
	豊田 章一郎	トヨタ自動車 株式会社	名誉会長
	中村 俊一	アイシン精機 株式会社	Senior Executive Advisor
	古井 貞熙	豊田工業大学シカゴ校	理事長
	保立 和夫	豊田工業大学	学長
監事	宗岡 正二	日本製鉄 株式会社	相談役
	山本 尚	中部大学	教授
	後藤 貞明	後藤公認会計士事務所	所長
	清水 要	トヨタ自動車 株式会社	経理部長

豊田工業大学

学 長	保立 和夫	副 学 長	大石 泰丈
学 生 部 長	齋藤 和也	総合情報センター・附属図書館長	大石 泰丈
事 務 局 長	久本 眞史		

FILE-06 組織

豊田工業大学シカゴ校(Toyota Technological Institute at Chicago)の新学長に Matthew Turk氏が就任

豊 田工業大学シカゴ校(TTIC: Toyota Technological Institute at Chicago)理事会の決定に基づき、

Matthew Turk氏が同校の新学長に7月1日付で就任した。任期は2022年6月30日までの3年間。古井貞熙前学長は、同校の理事長に就任した。

業との協業経験に加え、起業経験なども豊富に持つ。専門はコンピュータサイエンス、特に、コンピュータビジョン。カーネギーメロン大学で1984年に修士号、マサチューセッツ工科大学で1991年に博士号を取得した。



Matthew Turk新学長は、カリフォルニア大学サンタバーバラ校コンピュータサイエンス学科の教授、学科長を務めると共に、メディア・アートと技術分野の教授も兼務し、教育・研究に従事。それ以前に在籍したマイクロソフト研究所では、2000年にビジョン技術の研究グループを創立。シリコンバレーの企業との繋がりや航空機関連の企



古井貞熙 理事長



Matthew Turk 学長

人事紹介

新任



モビリティ工学研究室

小野 英一 連携客員教授

1987年~現在 株式会社豊田中央研究所
1994年9月 名古屋大学 工学博士
2009年~現在 九州大学大学院 非常勤講師
2019年9月 本学連携客員教授に着任

主な研究分野

CASE(Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric)という自動車の変革において、制御の重要性が増しています。安全で快適、さらに環境にも優しいモビリティの実現を制御工学の立場から目指します。また、変革の時代をリードする人材を育成し、社会へ送り出すことも、研究室の重要な使命と考えています。

新任



環境化学研究室

渡邊 佳英 連携客員教授

1987年~現在 株式会社豊田中央研究所
2004~2008年 トヨタ自動車株式会社東富士研究所
2005年9月 東京大学 博士(工学)
2019年9月 本学連携客員教授に着任

主な研究分野

環境浄化や環境負荷低減の技術に対するニーズは世界的に強まることが想定されます。排ガス浄化触媒技術、クラスター触媒技術および光触媒技術などに加えて化学工学などを駆使して、システム目線での環境負荷低減およびエネルギー循環に寄与する技術の創製を目指します。また、「持続可能な社会の創り手」を育成し、社会へ送り出すことを重視しています。

新キャンパス NEWS

現在のキャンパス風景
~中央棟の建設工事が本格化~

旧校舎の中核であった1~3号棟の解体も終わり、中央棟の建設が本格化している。また、旧久方寮の跡地に新設されるテニスコート2面についても12月からの稼働に向け、順調に工事が進められている。なお、2020年に完成する中央棟には、学びの中心となるラーニングコモンズや研究・実験室、350席収容の大ホールなどが入る予定。



2019年8月26日撮影

1. 学校法人が作成する計算書類について

学校法人会計基準に基づいて作成する計算書類には大きく分けて、以下の3種類がある。

- **事業活動収支計算書(表1)、収入と支出の構成グラフ(図1)**
教育活動および教育活動以外の経常的な活動、並びに臨時的活動(特別収支)の3つの活動における収支状況を明確にする。
- **資金収支計算書(表2)**
当該年度の諸活動に対応するすべての資金の収入・支出の内容を知ることが可能。
- **貸借対照表(表3)**
当該年度末における資産、負債、純資産(基本金、繰越収支差額)の状態、つまり学校法人の財政状態を知ることが可能。

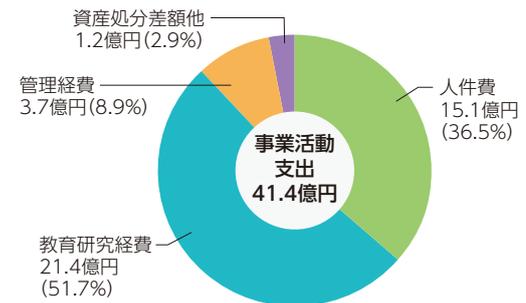
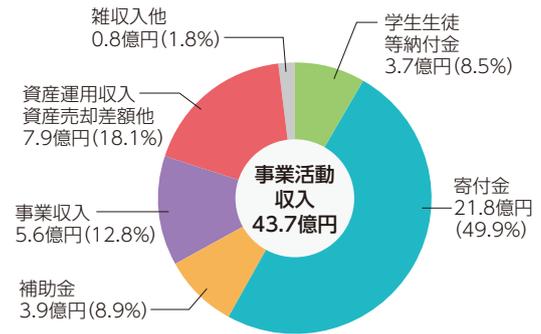
2. 事業活動収支計算書について

(表1) 2018年度 事業活動収支計算書

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異 (決算-予算)
教育活動収支	△1,473,477	△984,589	488,888
教育活動外収支	737,874	791,130	53,256
①経常収支合計	△735,603	△193,459	542,144
②特別収支	△311,638	△273,049	38,589
基本金組入前収支差額 (①+②)	△1,047,241	△466,507	580,734
基本金組入額	0	△100,000	△100,000
当年度収支差額	△1,047,241	△566,507	480,734
前年度繰越収支差額	1,744,248	1,877,375	133,127
基本金取崩額	896,327	1,427,482	531,155
翌年度繰越収支差額	1,593,334	2,738,350	1,145,016

(図1) 収入と支出の構成グラフ



(注) 上記グラフは、新キャンパス建設に係る収入・支出を除いて算出。

■ 2018年度 決算概況

【予算との主な差異】

- ◎新キャンパス南棟への移転に伴う教育研究用備品・管理用備品の除却が当初予定を大幅に上回ったため、1号基本金の組入が減少し(取崩しが発生)収支改善。
- ◎その他、配当金収入増や人件費減などの収支改善があったが、一方で、老朽施設・設備の更新などの増があり、収支は概ね相殺。

3. 資金収支計算書および貸借対照表について

(表2) 2018年度 資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生納付金収入	368,770	人件費支出	1,519,805
手数料収入	15,613	教育研究経費支出	1,605,002
寄付金収入	2,512,313	管理経費支出	359,910
補助金収入	392,771	施設関係支出	1,024,905
資産売却収入	1,375,356	設備関係支出	461,415
付随事業・収益事業収入	564,045	資産運用支出	1,453,561
受取利息・配当金収入	788,834	その他の支出	4,028,427
雑収入	66,809	資金支出調整勘定	△ 381,483
前受金収入	162,304	翌年度繰越支払資金	11,669,475
その他の収入	3,938,657		
資金収入調整勘定	△ 127,987		
前年度繰越支払資金	11,683,532		
収入の部合計	21,741,017	支出の部合計	21,741,017

(表3) 2018年度 貸借対照表

(単位:千円)

資産の部		負債および純資産の部	
科目	本年度末	科目	本年度末
固定資産	55,116,371	固定負債	395,867
有形固定資産	20,242,635	退職給与引当金	395,867
土地・建物・構築物	16,633,923	流動負債	530,447
教育研究用備品	2,422,886	未払金	349,918
図書	543,559	その他	180,529
その他	642,267	負債の部合計	926,314
特定資産	33,215,490	第1号基本金	30,107,570
その他の固定資産	1,658,246	第2号基本金	700,000
長期有価証券	300,189	第3号基本金	32,119,623
その他	1,358,057	第4号基本金	270,000
流動資産	11,745,486	基本金合計	63,197,193
現金預金	11,669,475	繰越収支差額	2,738,350
その他	76,011	純資産の部合計	65,935,543
資産の部合計	66,861,857	負債および純資産の部合計	66,861,857